

建設水道常任委員会記録

令和2年6月30日(火)午前10時02分～午前10時33分(9階908会議室)

○出席委員(8名)

委員長	梅津 一匡
副委員長	根本 雅昭
委員	丹治 誠
委員	石原 洋三郎
委員	小熊 省三
委員	黒沢 仁
委員	渡辺 敏彦
委員	真田 広志

○欠席委員(なし)

○案 件

所管事務調査「道路の効率的な維持管理・安全対策に関する調査」

- 1 今後の調査の進め方について
- 2 調査の振りかえりについて
- 3 委員長報告について
- 4 その他

午前10時02分 開 議

(梅津一匡委員長) ただいまから建設水道常任委員会を開きます。

本日の議題はお手元に配付の次第のとおりですが、当委員会における所管事務調査につきまして、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の状況を鑑みまして、4月中旬より開催を延期してきたところですが、緊急事態宣言が全国で解除されたことに伴い、本日より所管事務調査を再開いたしたいと存じますので、よろしくお願いいたします。

それでは初めに、今後の調査の進め方についてを議題といたします。

所管事務調査の再開に伴い、今後の調査のスケジュールについて、正副手元で作成いたしましたスケジュール案を既にお手元に配付させていただいております。今回の所管事務調査については、9月の定例会議での委員長報告を行う予定ですので、今後の委員会では委員長報告に向けたまとめの作業を進めていくようになります。9月定例会議において委員長報告を行うスケジュールとしましては、

このように考えております。このことについて何かご意見があればお願いいたします。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(梅津一匡委員長) では、お示した案のとおり進めてよろしいでしょうか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(梅津一匡委員長) では、そのようにいたします。

委員会開催日の日程調整は閉会後に行いますので、よろしくをお願いいたします。

なお、調査の進捗によりお渡しした調査スケジュールが変更される場合がありますので、ご了承ください。

次に、調査の振り返りについてを議題といたします。

協議に先立ち、委員の皆様のお手元に配付させていただいております資料についてご説明させていただきます。お手元の資料の資料1につきましては、2月に実施いたしました行政視察において、視察先の静岡県浜松市に追加で依頼をしていた質問事項に対する回答でございます。内容については、後ほどご確認をお願いしたいと思います。

続いて、資料2につきましては、この間道路の維持管理に関する本市の動きについて、正副委員長手元で把握いたしました内容の資料になります。昨年10月の台風19号の復旧対応をきっかけに、災害発生時における道路管理の垣根を越えた迅速な復旧対応を図るため、本市と福島県において災害の発生時における道路の維持修繕協定を去る5月29日に締結したとのことであります。災害等の緊急時における道路の維持管理については、1月に実施した当局説明の中でも聴取いたしましたが、このような動向も踏まえ、今後の調査のまとめに入ってまいりたいと思いますので、内容について委員の皆様にもご確認いただきたいと思います。

それでは、今ほどの協定の内容等も踏まえまして、議題となっております調査の振り返りについて協議いたします。

これまで当局説明や参考人招致、行政視察を行い、説明や質疑で得られた視点を基に皆様から意見の開陳をしていただきました。そこで、今回はこれまで開陳された意見と、それぞれの調査のポイントとなる部分について正副委員長手元で整理いたしましたので、それを配付させていただきます、それを基に調査全体に対するご意見を出していただき、当局への提言内容などについて検討を進めたいと考えておりますが、よろしいでしょうか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(梅津一匡委員長) では、そのようにさせていただきます。

資料を書記に配付させます。

【資料配付】

(梅津一匡委員長) それでは、資料の説明をいたします。

資料3は、これまでの当局説明、参考人招致、行政視察における各委員の意見の概要を整理したも

のになります。資料4は、これまでの調査の振り返りということで、これまでの調査の主な内容を項目ごとに整理したものになります。

それでは、少しお時間を取りますので、資料3については、各自発言の趣旨等についてご確認いただいた上で、他の委員から出た意見にも目を通していただきたいと思います。また、資料4については、内容についてご確認をいただきたいと思います。黙読をいただいた後に、資料の内容を踏まえながら、これまでの調査を通して市へ提言すべき事項についての協議を行いたいと思います。

それでは、資料の黙読の時間を3分ほどお取りいたしますので、確認をお願いいたします。

【資料黙読】

(梅津一匡委員長) 記載しております発言の内容等について補足などはございますでしょうか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(梅津一匡委員長) それでは、ただいまご確認をいただいた内容を踏まえながら、議題の3つ目の委員長報告についてを議題といたします。

資料4にも問題提起をさせていただいておりますが、これまでの調査を通して市への提言となる部分についてご協議いただきたいと思います。市への提言については、当局に対する事業の提案ではなく、市議会としての政策的な提言となるようご意見をいただきたいと思います。

それでは、意見がまとまった方からご発言をお願いいたします。

(渡辺敏彦委員) この維持管理、安全対策についてであります。視察等を含めて、行政職員の目視と情報収集、市民からの提供を受ける、それに対して迅速に対応することが大切であろうというふうを考えます。迅速に対応することによって市民からの信頼を得ることができる。これが何度要望してもできなければ、自治振興協議会対応について何度要望してもやっていただければ、市民からの情報提供もなくなってしまう。なくなってしまうということは、効率的な維持管理とか何かのレベル、それ以前の問題なのだと思うのね。しっかりした予算を確保しながらそういった対応をしていくことが大切であろうということは、財政厳しいという状況の中で、自治振興協議会の要望、市民が困っているのだけれども、市のほうの意識が多分、緊急性、重要性、順位性とかと訳の分からないこと言っているけれども、市民と同じレベルの意識を持っていかないと、なかなか市民に満足していただける安全な道路管理ができないのではないかなというふうに思います。一番最初は情報を提供いただく。福島市の場合は、自治振興協議会というのあるから、情報はいっぱい来ているのね。その辺の見極めとしっかりした予算立てが大切ではないかな。石原委員もよく言うけれども、道路のサイドのやつとセンターラインが、県と市町村がひどくて、あちこち歩くと年取って本当に危ないのです。その辺、この前聞いたけれども、全然やっていないと言ったでしょう。まさに運転していて危ないと思うのだよ。なくてもいいだろうと思う人もいる、市の感覚がずれているのではないかなと思う部分があるのだけれども、その辺やっぱりかゆいところに手が届くような行政サービスをいただければなというふうに思います。

(黒沢 仁委員) まず、道路の情報、いろんな点検とか何か必要だというベース化というのは確かに必要なだけけれども、浜松なんかでもスマホの通報より電話通報のほうが件数的に多かったというようなことで、やっぱり本市も、今渡辺委員がくしくも言ったとおり、自治振とか町内会とか、いろんな形で市民からの情報をいかに集積しながら点検して検討していかなければならないかというような部分で、面積が広い分、市民の目を通した、やっぱりそういった点検、情報も今後強化していくべきであろうと考えております。そしてまた、限られた財源の中では、やっぱり強い道路造り、ここに書いてあるのですけれども、国土強靱化というような部分で、安全対策に関して一番重要なのはやっぱり災害に強い道路を造っていくというようなことで、自然災害等々が最近多く発生する中では必要ではないかというようなことであります。また、結局限られた財源の中ではやっぱり優先性、計画性も考慮に入れて確実に実行していくという部分が、市民にとってはやっぱり生活に一番密着しているのが道路行政だと思うので、その辺に着眼点を置いて道路行政を進めていくべきだということです。

(丹治 誠委員) 先ほど渡辺委員から迅速な対応というお話ございましたけれども、私もそのように思います。市から当局説明の際にあったのですけれども、市民からの要望が多様化していて、早急な対応がなかなか追いつかないという、そんなお話があったのですが、そういった中でしっかり人材育成をしていくというか、そういった視点が大事かなと。どこかの視察先で人材育成ということで、多様化している要望に対していろんな機関とやり取りして、コーディネート力を高めているなんていう話もあったのですけれども、これからはそういった職員なんかも必要になってくるのかななんていうふうに思います。それとあと、今後福島市でスマートフォンを活用して道路維持管理をやるという話もあるのですけれども、見える化というか、しっかりやるので、対応状況がどうなっているのかというか、そういったようなことも市民にフィードバックできるようなものをつくっていくと、より先ほど言った迅速な対応、そういった面でより親切なのではないかなというふうに思います。

以上でございます。

(石原洋三郎委員) 資料のほううまくまとめていただいて、誠にありがとうございます。いろいろとあるかと思うのですけれども、限られた予算の中でいかに効果的に、効率的に、そして市民の安全性が担保されていく、安心が得られるというような道路保全が大切だと思いますので、今後ともいろいろと様々な方法や取組をしていく中で最適化を図っていただければと思います。

以上です。

(真田広志委員) 道路管理に係る予算というのは、本当に年々削減されていますよね。縮小の一途をたどっている中で、福島市は総延長3,000キロもの道路を管理していかなければいけない。これだけの道路の管理をしていくには、何より管理の優先順位のつけ方というものをしっかりと考えていく必要があるのだと思います。先ほど来話がありましたけれども、自治振もそうでありますし、電話、携帯、スマホ、様々なシステムの形で情報収集というのはさらに努めていく必要もあるでしょうし、そういった寄せられた情報をどのように活用していくのかというのがまず重要なのだろうなど。例えば特

に声の大きい人の意見ばかりを優先して対応するというのではいけないでしょうから、そういったものをそういった頻度だったり、声の大きさだったりで判断するのではなくて、本当に市民の安心安全を確保するためにどういったところの修繕が必要なのかと、そういったことを真に見極めていく必要があるのだろうなという感じがしました。そういったことの見極め方も含めて、しっかり点数化、システム化していく、そういったことも今後重要になってくると思います。それに加えて、やはり職員教育の徹底というところも、先ほども話がありましたけれども、今後しっかりと行っていく必要があるのだろうなという感じがしました。

以上です。

(根本雅昭委員) 今までも出ていることと大体同じようなまとめなのですが、やはり一番は安全安心だと思います。市民の皆さんが安全に道路を通行、そして利用するというのが一番だと思いますので、そのために、しっかり様々な情報を、スマホなども使うと大量に入ってきますので、それを効率よく処理をして、優先順位をしっかりとつけて、それを市役所の中でも関係部署で共有をしながら取り組んでいくということが重要なのではないかなというふうに感じました。

そして、これから調査の報告をするわけですが、調査報告をしてそこで終わりではなくて、今はAIなどが新しい技術ですが、今後も様々な今はない技術が出てくると思いますので、そういうものも、こちらから言わなくても、当然市民の方、そして議会でも当局と意見交換をしながら、引き続き継続的に取り組んでいけるような提言も必要なのではないかなというふうに感じました。

以上です。

(小熊省三委員) まず、いろいろ見てきた中で思ったのは、いろいろ機器を使いながらやっているわけですが、町田だと思ったのですが、情報を共有化しているというか、そういうところは非常によかったなと思っていました。そういう中で、今度ICT活用も含めて出てくるのだろうと思うのだけれども、いかに効率的にやっていくかということが求められると思いますし、あとそんなこと言うとあれですが、予算の問題もあると思うので、そこら辺では優先順位ちゃんとつけていながらやっていくということと、併せて市民の安全安心をどう確保していくかということが大事なのだろうと思っています。

(梅津一匡委員長) 皆さんから意見いただいた中で委員長として感じたところは、皆さん共通して言えることは優先順位のつけ方ということは1つ共通点として言えるのかなというふうに捉えております。やはり危険箇所が発生する前の予防保全というような観点、そういうところは各自治体を見てきた中で、また当局に聴取した中でも大変重要なのかなというふうに捉えられたところであります。そういった意味でICTを活用した情報処理であったりとかということで、市民に対しての見える化、情報の共有というようなこともできますし、そういった技術革新の中で様々な取り込んでいくべきものは取り込んでいって、そして活用していくということが時代に即した形の道路行政の在り方なのかなというふうに思っております。そういった中で情報を処理するための人材の育成であったりとか、そ

ういったところも皆さんからもご意見がいただけたところでもあります。

それらをいただいた意見の中から提言としてまとめられる部分はまとめていきたいというふうに捉えておりますが、今まで皆さんから意見が出た中で、あの発言ちょっとどうなっているのなんていうことは特にないですね。自由協議するような必要はないですね。

(渡辺敏彦委員) 優先順位というのはつけるわけなのだけれども、もともとが少ないから、なかなか回ってこないのだ、確か。ただ、小さなひびが大きな亀裂になるでしょう。例えば道路ひび割れていて雨入ったとか冬は雪で、小さいやつを直して、まだ大丈夫だという意識でいけば、それがだんだん雨入ったりして、下抜けたりとなるのね。だから、その辺の大丈夫だという意識をなくさないとなかなかいい方向には進まないのではないかなと思うのだよね。特に職員の意識改革というのが大切だと思う。ただ、金かかるという話になってくると、今度市長の意識改革になるのかもしれないのだ。その辺総合的にみんなで意識変えましょう、当局変わらないとどうにもならないのかなという思いはあるよ。小さなひびが大きな亀裂になるのだと厳しく強く言って。

(梅津一匡委員長) 職員の意識改革というところ、あと市民自体がやはり道路に対する興味を持つというところ、そこをやはり合わせ技で進めていくということが一つ必要なかなというふうに聞いていて思いました。

(真田広志委員) おっしゃるとおりなので、早めに対処するというのが非常に重要なのだと思います。柏市だかどこかで全てを網羅するわけにいかないから、とにかく小さいうちに処理していこうということで、MC I 値とか、いろんな路線の特性とか、そういったいろんな指標なんかも点数化しながら優先度をつけて、その中で市民の安心安全を高めていこうという取組をしていたところがあったと思うのです。それって非常に参考になるなと思っていて、そういったこともぜひ福島市でも見習うべきは見習っていく必要はあるのだろうなという気がしましたので。

(梅津一匡委員長) 要望があったところですがすぐ対応できないというのは先ほど渡辺委員からも出ていたと思いますけれども、そういったことに対してのなぜできないのかという理由として、そういうものが一つの指標としてあるのであれば、示せるのであれば。

(黒沢 仁委員) よく、道路本体はいいのだけれども、結局法面の崩壊によって道路を塞いでしまったりなんなりするケースがある。そうすると、やっぱり財源がないというような部分で、崩れる箇所というのは同じ場所なのだよね。同じ工法でやっているわけ。ただ貼り付けるだけで。やっぱりそれでは安全とか何かにつながっていかないわけだから、同じようにしてやって、何回も同じになった場合はやっぱり工法を考えて、検討してやっていくというような、そういうふうな工法的な部分も視野に入れながら安全の確保を図っていかねなければならないななんて、台風19号だけでなく、今後いろいろあるから。そうすると、大体崩れるところって同じなのだ。同じくまたぺたぺたやって、また崩れるのだ。そうしたら、やっぱりそれは駄目よと。やっぱり安全性を最優先してやらなければ、ちょっと銭かかってもそこはちゃんと次は崩れない工法でやりましょうよというぐらいのが必要だよ。

(梅津一匡委員長) 保全手法の精査という部分と、あと先ほど来出ているようにお金というところですか、そういうところはやっぱりしっかりと国、県に財政措置をより重点的にしてもらおうような、そういうような訴えというのも一つ手なのかなというふうには思います。やっぱり市単独での財源では限度は見えているので、そこは共通的な部分だと思います。ただ、ちょっと戻りますけれども、真田委員おっしゃったように、やはり基準というものがある程度あれば、そういうものが示せば、市民の皆さんにも説明が我々自身もできますし、市民の皆さんも分かりやすいと思いますので、見える化をしていくというところ、一つこれは提言に盛れるのかなというふうには感じたところです。

(渡辺敏彦委員) 公でやるものってほかにはないのだよ、この件では多分。道路とか側溝ぐらいしかないのだから。だから、いろんなことで財政調整基金使ったり、臨時財政対策債使ったり、臨時財政対策債は使わないのだよね。それをもっと上手に使ったらいいのではないの。そういうことです。

(梅津一匡委員長) 様々な手法を考えながら財源の確保というところですかね。

そんな感じでよろしいですか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(梅津一匡委員長) では、今ほどのご意見を基に、次回の委員会においてまとめました内容を委員長報告骨子案としてお示ししたいと考えておりますので……

(真田広志委員) 本当にこれ余談なのだけれども、やっぱり財政の在り方だったりとか、国に予算要望、要求していったところで、最終的には自治体の考え方になっていくと思うのだよね。福島市も道路維持管理21億円ぐらい、当初予算ベースで。それをよしとするのか。ただ、現状これだけ安心安全に対する意識が高まっている中で、今までみたいに縮小の一途で本当にいいのか、それはやっぱりしっかり考えておかなければならないし、我々委員会としてしっかり求めていかなければならないところなのだと思います。もうちょっとその辺に目を向けて予算配分してもらおうようにということも重要で、我々が求めていかないといけないのかなと思ったので、ちょっと補足で。

(梅津一匡委員長) 将来的に安心して利用しやすい、市民のための安心安全な道路行政というものを我々自身は確かに訴えていかなければいけないです。

(丹治 誠委員) 確かにおっしゃるとおりだと私も思っているのですが、最も道路の維持管理って安心安全を優先しなくてはいけない。その中でどんどん予算が少なくなってきたりとかしている一方で、最近災害なんかもたくさん起きているので、手当てしなくてはいけない部分もいっぱいある。だから、人の命を守るということを考えれば、防災、減災とか、そういった意味でもしっかり道路に関する手当てというのは必要ではないかなというふうに思います。

(梅津一匡委員長) その他、いいですか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(梅津一匡委員長) では、次回委員長報告骨子案としてお示ししたいと思いますので、よろしく願いいたします。

次に、その他を議題といたします。

正副委員長からは以上ですが、委員の皆さんから何かございますか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(梅津一匡委員長) では、以上で本日の建設水道常任委員会を閉会いたします。

午前10時33分 散 会

建設水道常任委員長

梅 津 一 匡